

事業報告書（令和4年度）

事業名 世界の宝石 瀬戸内海を磨く 川ごみ探偵団

団体名 特定非営利活動法人 グリーンパートナーおかやま 担当者名 金谷啓紀

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

令和4年11月23日 草刈り

令和4年11月27日 川ごみ回収、調査分別

場所：旭川左岸（岡山市中区平井）旭川大橋上流平井第2緑地付近

参加対象者 中学生、一般

参加者 11月23日 約45人

参加者 11月27日 約150人

回収結果

アルミ缶 39.8kg、スチール缶 2.4kg

ビン 68.7kg、ペットボトル 146.3kg

プラスチック類(ペットボトル以外) 170kg

布紙など燃えるごみ(プラ、ペットボトル以外) 29,2kg

不燃ごみ 41kg、その他粗大ごみがあった



回収前の集合



回収開始



回収されたごみ



分別された燃えないゴミ



分別された燃えるゴミ



参加者の集合写真

2. ESD の視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

最初の活動から ESD を取り入れていたと考えているが、今年度からは特に青少年に重点を置き、持続可能な啓発活動としたいと考えた。これにより、大人や高齢者、その地域だけでなく岡山市、さらには岡山県に広がることを狙った。

② どのように学び合いを取り入れたか

学習に素直な中学生を主体に、子供たち、高齢者、一般の人たちに参加を呼び掛けた。町内会や、地域の人たちも参加し、いわゆる学びあいの輪が広がった。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

ごみが用水路にあることを普段は気にかけていなかったことを集まった人たちがみんな清掃することにより、多くのごみがあることを共通認識するようになる、それを他の人や家庭で話すことにより、広げていくことが実践であると考えた。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

初めて参加した中学生（今回は岡山市操南中、岡大附属中が中心であった）がごみの多さに驚いていた。このことを持ち帰り、家族や同級生に伝えてもらう事を期待していたが、じっさいそのように伝わったと聞いている。その点で教育上十分な成果が上がったと考えている。また、一般の人とも同様に思い川ごみがどこにどのように集まっているのかを理解して、それを回りの人に広め伝えていくことを約束してくれたことが今回の活動の成果だと考える。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

若い人に照準を合わせて重点的に取り組んだことが評価されたと思っている。今後はこの活動を一部の中学生でなく、小中学高校生、大学生に参加するよう広めていきたい。また市内の他の地域にも参加を呼び掛けていきたい。岡山市内の平井地区から始めてはいるが、ここを流れる旭川上流から河口まで一斉に行うことが理想である。また、GPO だけが主体ではなく、他の団体や企業などが参加して、大きなうねりとなることが我々の目指すところである。マスコミや日本財団など我々の活動を見て賛同してきている。

ただごみを取るだけでなく、ごみのない岡山、環境先進都市と言われる岡山を作るための啓発活動を続けて広めていくことが我々の課題であると考えている。

次年度からはもっと大きなうねりとなるだろう。